

大会名称: **高松宮記念杯 第48回全日本実業団バスケットボール選手権大会**  
**東日本大震災復興支援**

開催場所: **仙台市体育館 Bコート**

試合区分: **No. 77 女子 準決勝**

期 日: **2016(H28)年2月13日(土)**

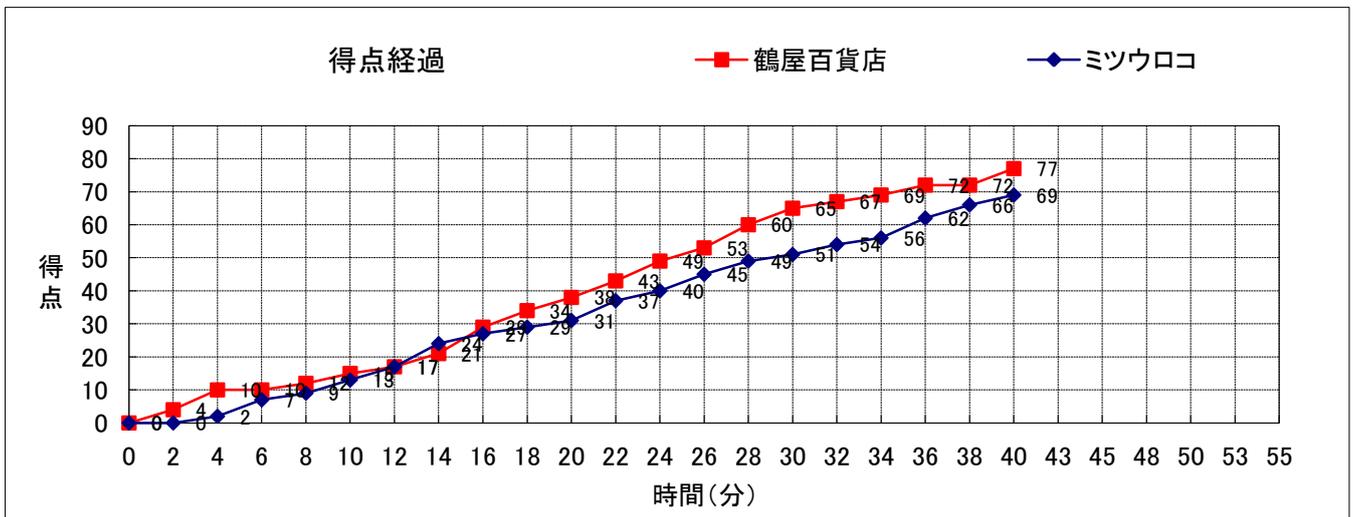
主審: **針生 淳男**

開始時間: **17:00**

副審: **小野寺 浩:村田 尚美**

鶴屋百貨店		○	15 - 13 23 - 18 27 - 20 12 - 18 - - -					●	ミツウロコ						
(九州1位)		77						69	(関東2位)						
NO.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	NO.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
5		内田 結日	-	-	-	-	-	3		丹羽 美妃	3	1	0	0	1
6	*	田中 愛巳	5	0	2	1	5	5	*	高田 渚	17	0	4	9	5
7		松岡 和泉	0	0	0	0	2	7		新 理沙	-	-	-	-	-
8		後藤 夏実	-	-	-	-	-	8		野添 美香	-	-	-	-	-
9	*	落合 千里	10	0	3	4	1	11		高嶋 夏美	0	0	0	0	0
10	*	瀬井 香織	11	1	4	0	3	12	*	富田 咲慧	16	0	6	4	3
11		上野 綾菜	19	5	2	0	2	13		金城 里奈	-	-	-	-	-
12	*	米村 知紗	14	0	7	0	2	16	*	坂本 杏紗	19	3	5	0	1
13	*	野尻 絢那	12	0	4	4	3	17	*	奥里 綾子	14	2	3	2	3
14		村木 花奈	-	-	-	-	-	23		箭内 瞳	-	-	-	-	-
15		濱本 愛梨	6	0	3	0	2	28	*	笹平 美樹	0	0	0	0	3
16		簗田 小百合	0	0	0	0	2								
コーチ 村上 好美 / TEAM								コーチ 田島 和斗 / TEAM							
合計			77	6	25	9	22	合計			69	6	18	15	16

S: スターター PTS: ポイント 3P: 3ポイントシュート 2P: 2ポイントシュート FT: フリースロー F: ファウル  
 一般社団法人日本実業団バスケットボール連盟



大会名称: **高松宮記念杯 第48回全日本実業団バスケットボール選手権大会  
東日本大震災復興支援**

開催場所: **仙台市体育館 Bコート**

試合区分: **No. 77 女子 準決勝**

期 日: **2016(H28)年2月13日(土)**

主審: **針生 淳男**

開始時間: **17:00**

副審: **小野寺 浩:村田 尚美**

<b>鶴屋百貨店</b>  (九州1位)	○ <b>77</b>	15 - 13 23 - 18 27 - 20 12 - 18 - - -	● <b>69</b>	<b>ミツウロコ</b>  (関東2位)
----------------------------	----------------	---	----------------	----------------------------

1Q:両チームハーフコートマンツーマンでスタート。鶴屋が速いボール運びから#6田中、#9落合らアウトサイドを起点に攻撃を仕掛けるのに対し、ミツウロコは#12富田、17奥里のインサイドから攻撃を展開。序盤、鶴屋のガード陣のドライブに対しミツウロコがファールを重ねるなど、鶴屋ペースになりつつあったが、お互いシュートミスが続き重苦しい展開。終盤、鶴屋が#9落合のドライブでミツウロコのファールを誘いフリースローで得点を重ねる。ミツウロコも#16坂本のショットなどで対抗し15-13と鶴屋が2点リードして終了。

2Q:ミツウロコは#16坂本の3P、#12富田のミドルポストの1対1などで対抗、開始1分には同点に追いつく。鶴屋は引き続き速い展開からのショットを積極的に狙い、#11上野が連続で3Pを沈め、ペースを渡さない。鶴屋は体を張ったディフェンスでインサイドを抑えにかかると、ミツウロコは#12富田がゴール下で強さを発揮し中盤は一進一退の展開。残り3分を切って、鶴屋の激しいディフェンスからの切り替えの速い攻撃をミツウロコが止めきれず、次第に鶴屋がゲームの主導権を握る。#11上野の3Pに加え、リバウンドからのセカンドショットも#13野尻が確実に決め、38-31と鶴屋がリードを広げ前半終了。

3Q:鶴屋は#10瀬井が3P、ドライブで連続ゴールを決めると、#13野尻がオフェンスリバウンドで存在感を発揮し、開始3分で点差を10点台に広げる。中盤、鶴屋はフルコートマンツーマンをしかけミス誘発するなど、豊富な運動量でゲームを優位に進める。ミツウロコは#16坂本の3P、#17奥里のインサイドなどで対抗。残り3分を切って、鶴屋は#15濱本、#9落合がミドルからのショットを確実に沈めると、フルコートでのプレスや、ハーフコートゾーンなどチェンジングディフェンスが奏功しリバウンドを確実に獲得。ペースを維持したまま65-51で3Q終了。

4Q:ミツウロコは#17奥里の3Pなどアウトサイドから積極的にショットを狙い挽回を図るが、ショットの精度が上がらず点差を縮められない。一方、鶴屋は#9落合のドライブ、#11上野の3Pで確実に加点し、残り5分で72-58と点差が広がったところでミツウロコが2つ目のタイムアウト。4ファールとなった鶴屋に対しミツウロコがインサイドを粘り強く攻め#17奥里らがフリースローで確実に加点すると、ディフェンスに勢いが戻り、鶴屋のターンオーバーを誘発、残り2分には6点差まで追い詰めるが、鶴屋は#12米村がリバウンドショットなどで連続ゴールを決め再び2桁点差に引き戻す。最後まで速い展開での攻防に持ち込んだ鶴屋が77-69で勝利した。